

LUXURIOUS REGAL

REGAL 42 FLY

アメリカのボートブランドの雄「REGAL(リーガル)」。
エクスプレスクルーザーやランナバウトでおなじみのボートビルダーだが、2017年に久々にフライブリッジタイプの「REGAL 42 FLY」を発表。

その後、随所にマイナーチェンジを加え、より熟成されて現在に至る。

日本でも人気のフライブリッジタイプを、エクスプレスでおなじみのREGALが作り上げるとどうなるのか？

気になる日本初上陸を果たした「REGAL 42 FLY」を、強風下の神戸沖でシートライアル。

text: Atsushi Nomura photo: Makoto Yamada
special thanks: REGAL JAPAN www.regalboats.jp





驚くほどのボリューム感、42フィート艇の常識を凌駕する居住空間を実現 期待のREGALのフライブリッジタイプが遂に日本初上陸

アメリカの独立系ボートビルダーの中では最大規模のブランド「REGAL (リーガル)」は、1969年の創業以来、数多くの小型ランナバウトや中型～小型エクスプレスクルーザーを生産し、このジャンルでは世界的に高い評価を得てきた。しかし、REGALは近年大きな変化を遂げつつある。2016年のアウトボードシリーズ登場以降、ラインナップを大きくリニューアル、翌年には久々となるフライブリッジモデル「REGAL 42 FLY」が登場。創業50周年を迎えた2019年秋には、アウト



ボードを搭載した非対称型センターコンソラーとも呼ぶべき「SAV」シリーズを発表している。アウトボードのラインナップは、北米では特に人気。ここに来てREGALは大きく躍進を遂げている。

今回紹介するのは2017年に発表され、マイナーチェンジによりさらなる進化を遂げた「REGAL 42 FLY」だ。エクスプレスクルーザーの多いREGALにあって、フライブリッジモデルは極めて珍しい。記憶の限り、2003年にデビューした「3880 Sedan Bridge」

と、2007年デビューの「4080 Flybridge Sedan」の2艇種のみだ。なお「42 FLY」には同型ハルのハードトップタイプ「42 Grand Coupe」という姉妹艇もあり、マイアミやフォートローダーデールなどの水路と橋脚の多いエリアではハードトップタイプが好まれるようだ。日本の場合は言わずもがな、フライブリッジタイプの開放感は捨て難い。そんな「REGAL 42 FLY」が日本初上陸を遂げた。REGALのフライブリッジ艇としても初上陸となる。

*

「REGAL 42 FLY」の全長は12.28m、全幅は3.96mとかなりのワイドビーム。2020年のREGALのイヤーモデルとしてはフラッグシップに該当する。エンジンはVOLVO PENTA D6 IPS 600 (435馬力) を2基掛け。最高速度は34ktに達する。今回は

神戸港の沖合いが10m/s以上の強風が吹き続けるコンディションだったため、そこまで回転数を上げなかったものの、フライブリッジ艇とは思えないスピード感は素晴らしい。



パワートレインはVOLVO PENTA D6 IPS 600、435馬力を2基掛け。オプションでIPS 500仕様もある。11kWのKOHLER製ジェネレーター、SEAKEEPERなども搭載。

2017年モデルに比べると内装や外装のカラーリングなどが変更されており、今回の艇はカラーリングはハルサイドとハルボトムにSteel Grayを、舷側下部のストライプとエアインテークカバーにBimini Blueを採用。なおハルサイドとハルボトムは10色、ストライプは無色を含む12色からチョイスできるという。

42フィートのフライブリッジ艇のためノーズは短めだが、ビームがしっかりとられている分、フォアデッキは広々としている。中央にはサンパッドを配置、可倒式オーニングもあり、コンディショ



ンの良いときにはゆったり寛げそうだ。フォアデッキからアフトコックピットへのアクセスは、両舷のサイドデッキを経由する。左舷側はそのままコックピットへ繋がるものの、右舷側はアフトコックピットのL字型ソファの背に妨げられている。しかし、背もたれは簡単に外せてステップが現れるため、むしろ行き来がしやすい。後部スイミングプラットフォームとの間も両舷からアクセス可能。右舷側には小さなステップが設けられており、これが浅橋や岸壁などのアクセスにも非常に便利だった。

アフトコックピットは後部から右舷にかけてL字型ソファとバーベキューカウンター、左舷にはフライブリッジへのアクセスステップが配置されている。メインサロンとの間を仕切るガラス製のエンクロー

ジャードアはほぼフルオープン可能。同じデッキレベルにあるため、アフトコックピットとメインサロンは一体化する。メインサロンをアフトコックピットに向けてシームレスに広げた感じで、大人数でのオンデッキパーティーやクルージングの際に多彩な使い方を楽しめそうだ。

メインサロンは前後はもちろんサイドウィンドウも巨大なため、採光性が極めて高く、とても明るい雰囲気だ。サロンの最前部右舷側にロアヘルムステーションが設けられているが、ここからの視界は想像以上に良かった。極端に傾かない限り左舷後方もしっかり確認できるだろう。メインサロンのレイアウトは後部左舷にU字型の大型ソファとラウンジテーブル。右舷には冷蔵庫などがマウントされたカウンタータイプの

アッパーギャレーを配置、まっすぐだった以前のカウンターとは異なりL字型レイアウトに変更され、使い勝手を増している。

*

ヘルムステーション左脇のステップを降りロアデッキへ。この空間をREGALでは“Open Air Atrium (オープンエアアトリウム)”と呼んでいるが、上部にちょうどフロントウィンドウが来るためかなりの開放感がある。アトリウムの右舷側にはフォアステートルーム内からもアクセス可能なダブルドア付きの個室ヘッド。ヘッドの奥にはセパレートされたシャワールームも設けられている。左舷側にはダウンギャレーが配置されている。オプションではダブルヘッド仕様もチョイス可能だ。その

前にはアイランド型のクイーンサイズのベッドを配置したフォアステートルームが来る。アトリウムの後ろのステップをさらに降り、ほぼミジップにあるアフトステートルームへ。面白いのはここにドアが無いこと。アトリウムの明るさ、さらには舷側の大型ウィンドウからの採光により

今回の42 FLYのオーナー松本正伸氏は、REGAL 35 Sport Coupe、REGAL 19 Surf、YAMAHA DFR 33なども所有する大のボート愛好家。釣り好きのため、ふだんのボートイングはフィッシングが多いそうだが、クルージング、マリナステイ、マリンスポーツなども楽しんでいる。今年は、少しラグジュアリーな遊びがしたいとのことでREGAL 42 FLYに白羽の矢が。息子さんもかなりのボート好きで、今回はふたりの可愛いお孫さんまで登場していただいた。42 FLYは、ファミリーで遊ぶのにも楽しそうなおボートだ。



多様なハルカラーのバリエーションもREGALならではの。フォアデッキのサンパッドにはオーニングも備える。アフトコックピットはメインサロンと同レベルにあり一体感が素晴らしい。



フライブリッジのアッパーステーションの周囲にはパッセージャーシート、サンパッドなどが並び、まるでキャプテンを囲むよう。広々としたスイミングプラットフォームは可動式。その脇にもちょっとしたステップが設けられ、浅橋や岸壁へのアクセスがしやすい工夫がされている。右舷のサイドデッキへも同じステップからアクセス可能だ。アフトコックピットにはバーベキューカウンターも装備している。



ロアデッキにありながら非常に明るい。アフトステートルームにはアイランド型のキングサイズベッドがワイドビームを活かして横向きに配置されている。

アフトコックピットのアクセスステップを上がってフライブリッジへ。42フィート艇としてはフライブリッジの広さはかなりある。前部の右舷側にアッパーステーション。ステーションの左脇にもサンパッドがあり、パッセンジャーシートなどと合わせキャプテンを囲むようなレイアウト

になっている。近年のこのクラスの欧米のクルーザーに多い意匠で、航行中にキャプテンを一人にしない工夫がなされている。キャプテンシートの後ろにはL字型シートとテーブルが配置されている。

パワートレインはVOLVO PENTA IPS600。ジョイスティックによるコントロールが可能で、強風下での離着岸も比較的安心感がある。オートフラップも搭載、もちろんマニュアル操作も可能だ。その他、ジャイロスタビライザーのSEAKEEPERも搭載しているが、今回のコンディショ

ン下では抜群の効き目だった。沖合いで横波を受けながら停泊し、撮影を実施したが、驚くほど横揺れを減衰してくれた。

*

須磨ヨットハーバーを出航し、神戸港に向かう。強風のためフライブリッジでの操船にはゴーグルが欲しいくらいだったが、軽快でパワフルな走りを見せる。加速性能は非常に優秀で一気にプレーニング、42フィートというサイズを感じさせない軽快さがあった。旋回は、IPSならではのクイックでタイトなターンを見せる。クルージングスピードは28

ノット程度。復路はロアステーションで操船したが、波にはかなり強く、多少のうねりや波はものともしない。うねりで跳ねてもいやなきしみはなく、衝撃も小さい。

*

42フィートというサイズを大きく凌駕した居住空間、随所にREGALならではのアイデアを凝らした艙装の数々。クルージングだけでなく、マリナステイやオンデッキパーティーなど、「REGAL 42 FLY」はマリナライフの愉しみを大きく広げてくれる可能性を秘めているボートだ。PB.



42フィート艇とは思えないほどのボリューム感あるメインサロン。左舷に大型ソファとラウンジテーブルを配し、右舷にはL字型にレイアウトされたアッパーギャレー。右舷前部のロアステーションからは全周方向の視界が確保されている。ロアデッキのオープンエアアトリウムにもダウンギャレーが備わる。



広々としたアフトステートルームにはキングサイズベッドを配置。ベッド部分のヘッドクリアランスこそあまりないが、それ以外の場所は大人が立っても充分な高さ。やはり42フィート艇ということを忘れさせる。フォアステートルームにはアイランドタイプのクイーンサイズベッド。ヘッドルームはフォアステートルームからもアトリウムからもアクセス可能。奥には独立したシャワールームもある。

REGAL 42 FLY

全長 12.28 m
全幅 3.96 m
喫水 1.1 m
重量 12.47 ton
エンジン 2×VOLVO PENTA D6 IPS 600
最高出力 2×435 HP
燃料タンク 977 L
清水タンク 235 L
問い合わせ先 リーガルジャパン TEL: 079-322-8800
www.regalboats.jp



須磨ヨットハーバーに停泊中の「REGAL 42 FLY」。LED照明のライトアップで幻想的な雰囲気を出し出す。マリナーでのナイトステイにも活躍してくれそうだ。